

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	クレヨンルーム		
○保護者評価実施期間		令和7年12月6日	～
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間		令和7年11月25日	～
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日		令和8年1月20日	

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育支援内容の充実と、一人ひとりの発達段階やニーズに合わせた支援プログラムの提供をしていること。	こどもの興味関心があるものを導入しながら、楽しく活動を終えることを意識している。	こどもの発達状況を随時チェックしながら変化するべきことは対応し、また、安心感を得るためにも固定すべき内容は固定化して楽しく支援していく。
2	発達チェック表で言語・知覚・身体・社会性の発達状況を確認しながら、支援に繋げていること。	保護者からの聞き取りもして、発達の確認ができるように意識している。	発達チェック表は導入しているが、そればかりにとらわれず、ニーズに適した支援内容をこれからも提供していく。
3	1対1での療育を主とし、集中できる環境づくりをしていること。 保護者・保育園等と情報共有をして、相互理解を図っていること	スタッフも活動内容に応じて人数調整をし、楽しく安全に支援するように意識している。 保育園への送迎時等、必要に応じて情報共有を行っている。	楽しい時、集中するときのメリハリをつけられる環境設定をこれからもしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等デイサービスでは、お便りやHPにて活動内容を発信しているが、児童発達支援では発信できていないこと。	児童発達支援は個別療育をメインで支援しているので、活動内容がより個別化しており、個人の特定に繋がることを懸念し、個別に保護者に状況を伝えていく。	放課後等デイサービスのお便りに児童発達支援の内容を加え、放課後等デイサービスへの移行のイメージを持ってもらったり、他のこどもたちの支援内容を知ることでさらに支援の幅を広げていくようにしていく。
2	個室の個別支援は空気の入れ替えがしにくいため、より消毒に注意していること。	道路を走る車の音や物音が時々するので、気になることがある。	始める前にしっかり窓を開けて空気を入れ替える。衛生面に配慮し、消毒を行ってより清潔にする。
3	家族が支援の場面を通じて、こどもの特性や、特性を踏まえた子どもの関わり方等を学ぶ機会が少ない。	面談時に最近の現状を伝えると同時に、接し方等を伝えているが、保護者の都合により十分な時間がとれていらない。	保護者に支援場面の観察や参加等をする機会を提供し、関わり方を学ぶことが出来るように検討する。